

★ 7月下旬からのアワヨトウの発生に注意！！ ★

6月下旬～7月上旬にかけて丹後地域のイネ、飼料作物などでアワヨトウが多く発生し、幼虫による被害が確認されています。

今後、7月下旬から次世代幼虫が多発することが予想されますので、ほ場及びその周辺での発生に注意するとともに、発生を認めた場合には防除を徹底しましょう。

- 1 作物名 イネ、トウモロコシ、飼料作物（イタリアンライグラス）など
- 2 病虫害名 アワヨトウ
- 3 発生地域 丹後地域
- 4 発生量 平年比多い
- 5 発生状況

(1) 京丹後市（丹後町及び網野町の飼料作物（イタリアンライグラス（写真1及び2））、トウモロコシ及び一部のイネほ場（写真3及び4））において本種幼虫が多発している。

(2) 西日本の複数の県において本種幼虫の多発が確認されている。

6 防除上の留意事項

(1) アワヨトウの生態

- 成虫は体長18mm前後で灰黄褐色である。
- 若齢幼虫の体色は黄緑色、成長すると灰緑色から黒緑色に変わる（写真5）。
- 多発すると葉をほとんど食い尽くし、隣接ほ場へ集団で移動する。
- 長距離移動性害虫で低気圧あるいは前線の通過に伴って飛来する。
- 飛来時期が早く、飛来数が多い場合には、その後の発生が多くなる（本年）。
- 本種はイネ科作物を加害し、ゴルフ場の芝のほか、雑草地、河川敷、道路の法面などのイネ科雑草にも発生する。府内の発生ほ場では、周辺のササも食害されている（写真6）。

(2) 防除対策

- 水田を深水で管理し、幼虫の水田への侵入を防ぐ。
- 深水管理ができない水田では、薬剤散布を行い幼虫の水田への侵入を防ぐ。薬剤防除を行う場合には、若齢幼虫期の防除を徹底する（表1）。
侵入前であれば、額縁散布も有効である。
- 防除の際には、周辺ほ場に農薬が飛散しないよう十分に注意する。
- 農薬の選択に当たっては普及センター、農協等と相談し、使用時期（収穫前日数）や使用回数等の使用基準を遵守して適正に使用する。なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」を参照のこと。

(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)

表1 アワヨトウの登録薬剤（平成29年7月7日現在）

作物名	IRACコード	薬剤名	希釈倍率・使用量	使用時期	使用回数	使用方法
いね科牧草	1B	スミチオン乳剤	1000倍・100～300リットル/10a	収穫14日前	2回以内	散布
とうもろこし	3A	アグロスリン乳剤	〃	収穫7日前	3回以内	〃
		トレボン乳剤	〃	〃	4回以内	〃

IRACコード：Insecticide Resistance Action Committee（殺虫剤抵抗性対策委員会）が取りまとめた分類コード



写真1 アワヨトウの多発ほ場（イタリアライグラス）



写真2 イタリアライグラスの被害株



写真3 イネの被害株



写真4 アワヨトウの多発ほ場（イネ）



写真5 アワヨトウ幼虫

（京都府丹後農業改良普及センター提供）



写真6 ササの被害